




30日の合同礼拝では2本目のろうそくに灯が灯りました。前回のこどもニュースでも書きましたが、目まぐるしく状況が変わっていく現代社会の中で、1週間に1本というゆっくりとしたペースで増えていく灯を子ども達は息を止めるようにしてじーっと見守ります。「固唾をのむ」とはこういう事なんだなあ、と感じます。その様な特別の時間と空間を分かち合えることに感謝したいと思います。

また父母の会の証しの会でも美しいハーモニーを聴かせてくださった「賛美の会」の皆様が献金のあとに、「恵み」の讃美を捧げてくださいました。

29日の讃美歌練習でも進行を担ってくださいましたが、こうして保護者の皆様がさまざまな場面で主体的にお働きくださるのが、この園の本当に素敵なおところです。ありがとうございます。讃美歌練習は、「練習」と名前がついていますが上手に歌えることが目的ではありません。子ども達とともに迎える讃美礼拝が大人にとっても、より豊かなものになるようにという園の願いと、讃美歌と一緒に歌うことで子ども達と喜びを分かちあいたいという保護者の願いが合わさり、長年実施されてきました。子ども達が讃美礼拝で歌う場面のエピソードや歌詞の意味なども交えながら進みます。ぜひご参加いただき、ともに豊かな時を過ごしませんか。

さて、「アドベント」はラテン語で「来る」という意味だと前回お伝えしましたが英語の「アドベンチャー」の語源でもあります。「探しに行く」という意味ですが、そう考えると2000年前、救い主のお生まれを待ち望み、遠い東の国の博士たちがイエス様を探しに長い旅をしていたことや羊飼いが生まれたはずの救い主を探し求め馬小屋にたどり着いたことに想いが至ります。すぐに見つかるのかわからないけれど、信じて待ちながら自らも求めて探していく。博士や羊飼いの歩んだ一歩一歩に、自分の歩みを重ねながら丁寧に子ども達とのアドベントの日々を紡いでいきたいと思っています。

児玉芽 



年長さん☆心を合わせて…ハレルヤ♪

11月のはじめに讃美礼拝の配役決定があり、2週間ほど前から〈ハレルヤ〉が始まりました！ クリスマスブックをもらった日、大喜びでクラスに戻ってきた年長さん。自分の役のセリフを聞かせてくれたり、歌を歌ってくれたり、クリスマスブックに色を塗りながら、讃美礼拝を心待ちにしている姿がありました。また、今までの年長さんの姿を見ていて憧れていた讃美礼拝、今度は自分たちの番だ！！と期待や責任感を持っている姿も見られます。



年長さんは今、イエスさまが生まれた馬小屋をイメージしながら、薄暗い遊戯室でハレルヤをしています。いつもと違う雰囲気緊張している姿も…。

「この時マリアさまはどんな場所で天使さんのお話を聞いていたかな？」「この時のローマ兵の気持ちはどんなだろう？」と、一つひとつの役の想い、背景を子どもたちと一緒に考えながらハレルヤをしています。

私が初めてハレルヤに参加した時、長いセリフを堂々と言う年長さんの姿に驚きました！きっと一所懸命頑張って覚えたんだろうなあと、その姿を想像してとても愛おしく感じました。中にはまだ覚えきれてない子や、ドキドキして上手く言えない…という子もいますが、お友だちの姿を見て「あんな風に言ったらいいんだなあ」とイメージを膨らませながら頑張って取り組んでいます。ハレルヤの最後には「今日みんなのどこが良かったか言い合ってみよう！」の時間があり、お互いの良かった所を褒め合ったり、ここをもう少しこうした方がよかった等も伝え合っています。年長さんならではの時間ですね。



### ☆ハンドベル☆



運動会での年長さんの合言葉「こころをひとつに」は、まさにハンドベルでも大切な言葉です。クリスマスブックを手に自分たちの出番を確認し「天使たちが出てくるところだよね」「聖歌隊さんが歌ってくれるんでしょ」と初回のハレルヤから讃美礼拝に期待をもって臨んでいました。実際にベルを鳴らしてみると…緊張でぎこちない動きになってしまったり、お友だちと音がずれてしまったり…それでも音がそろった時、きれいな響きになった時には目を輝かせている子どもたちです。

讃美礼拝ではみんなで心を合わせて、お祝いすることができますように♪

(あゆみ・あき)





## 『聖歌隊さん』

ハレルヤ①の時には、「年中のみんなで、クリスマスのお話を歌で伝えようね。聖歌隊って言う役だよ」と話してもピンとこなかった表情の子ども達でした。ところが今では「聖歌隊さん」と呼ばれると(僕たちだよね...)と友だち同士で確認するような動きをしたり、(私だよ~)と少し恥ずかしそうな表情を見せたりしながら集まってきます。そうした姿を目の当たりにして、バザーや運動会で人の役に立つ経験をしたことから、役割を担うことの喜びや達成感を得て自信を持った年中の子ども達が、聖歌隊という役割を通して更に心が育っていきなあ...とワクワクしています。

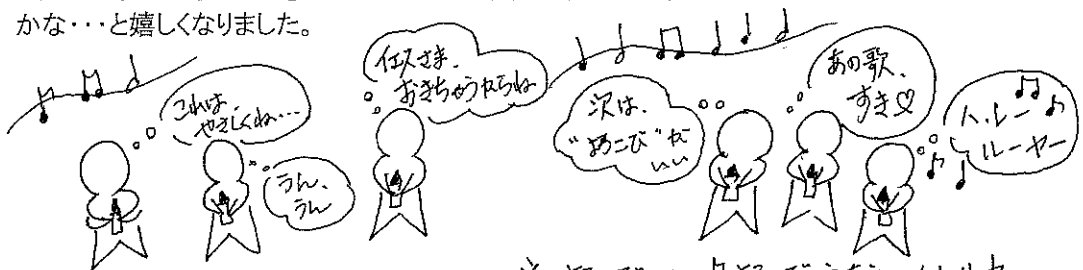


ハレルヤでは...

聖書のお話をしてから、讃美歌を歌っています。空に天使が現れた時、どんな風に空は明るくなったのかな？ 羊飼いさんはどう思ったかな？ イエス様が生まれた時、どんな人たちがお祝いに来たのか、赤ちゃんのイエス様に会った人たちはどんな気持ちだったんだろう？ 子ども達が知り、考え、感じて讃美歌を歌ってほしいと思っています。

年中さんだけで歌う讃美歌は、♪かみさまのおやくそく・♪きよしこのよるの2曲ですが、他の讃美歌も歌いたいと子ども達から声があがり、最近ではクリスマスブックに載っている他の讃美歌も歌っています。

讃美歌の中には日頃使わないような言葉もあり、なかなか歌詞が入っていかなかったものもありました。そうした曲が歌えるようになったことで楽しくなり、もっと歌いたいという意欲に繋がったのではと思っています。♪きよしこのよるを歌った時のことです。歌えるようになったことが嬉しく、やや大きな声で歌うことができました。その時に「この曲は子守唄だから、赤ちゃんイエス様が起きないように、すやすや眠れるような声で歌ってね」と話しました。後日、♪きよしこのよるを歌おうとすると子ども同士で「やさしくね〜」と声をかけ合っていました。また、つい最近の出来事では、♪かみさまのおやくそくを歌い終わった時「なんか今の上手だった」と子ども達から。歌声が少しずつ合ってきているのに気づいたかな...と嬉しくなりました。



※ よろ=び ⇒ ♪よろ=びうたえ ハレルヤ

クリスマスブックをもらった後「家で、お母さんと一緒に歌ったよ」と話しにきたり、「ハレルヤじゃなくても歌いたいんだけど、歌ってもいい？」と歌いたい気持ちを教えてくれたり、クリスマスを待ち望むというのは、こんな風に関心しながら毎日を過ごすことだよなあ〜と実感しています。子ども達と共に讃美歌を口ずさみながら、素敵なアドベントの時を過ごしたいと思います。ぜひご家庭でも。



# 年少ハレルヤ

## 「クリスマス知ってる？」

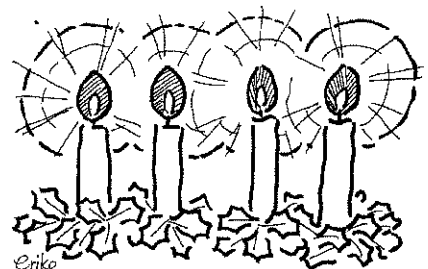
年少さんが集まって行った初めてのハレルヤ。「クリスマスって知ってる？」の質問に、「サンタさん!!」「プレゼントがもらえる日!!」と答えてくれた子ども達。

「そうだよ。実は誰かの誕生日なんだけど、わかる？」の質問に、「かみさま!!」とすぐに答えてくれた子がいました。「そう、神様の子どもイエスさまのお誕生日なんだよ!」と伝えると、「そうなんだー」という顔で頷く子ども達。ハレルヤの時間、絵本や紙芝居を使って本当のクリスマスを子ども達に伝えていきました。とても真剣に話を聞いていて、子ども達から「お母さんはマリアさま」「赤ちゃんイエスさま羊と一緒にいるねー」など発言をする姿があります。入園式ではたどたどしくお祈りの姿勢をしていた年少さんが、今ではクリスマスの本当の意味を知る時間を一緒に過ごせていると思うと、とても嬉しく思います。

## 年少さんのお役目は…

クリスマスがどんな日か知っていった年少さん。讃美礼拝の日は年少さんもお役目があります。かわいい天使・星・羊になって、一緒に礼拝に集い、讃美歌を歌ってイエスさまのお誕生をお祝いします。当日大きな動きやセリフはありませんが、礼拝で歌う讃美歌を少しずつ覚えていって気持ちを高めています。配役は、あつまりの中でのリズム遊びで天使・星・羊になりきって遊んだり、当日着る衣装を見たりして子ども達が自分で選びました。

キラキラした冠を見て「天使がいいー!」「(かわいい)ひつじがすき!」と決めていく中で、イメージが出来ず「やりたくない」と言う子もいました。初めてのことは緊張し、不安に感じることもあるでしょう。年少さんのねらいは、“本当のクリスマスの意味を知ること”です。初めての讃美礼拝で、大好きな年長さん・年中さんが伝えてくれるイエスさま誕生の喜びを、一緒に分かち合えたらなと思います。



# にじぐみ

色とりどりの落ち葉がいっぱいの園庭でにじぐみの子どもたちは毎日元気いっぱい遊んでいます。お気に入りの空き箱を見つけて、きれいな葉っぱや小石、一生懸命作ったさら砂やお団子を入れて、大事そうに持ち歩く姿はとても愛らしいです。体も力強く動かせるようになり、モンキーブリッジやすべり台も上手にできる子も増えてきました。ロープウェイも身軽にできる子もいて驚きました。中には怖がったり、慎重な子もいますが、他のお友だちがチャレンジしている様子をよく見えています。自分ができると思う瞬間がきっと来るので、その時を待ちたいと思います。季節の変わり目で体調を崩しやすいのですが、お休みのお友だちのことを毎日お祈りしています。そして久々に会えると「〇〇ちゃん、きたよー！」と嬉しそうに駆け寄って「おはよー」「いっしょにあそぼー」と嬉しい声掛けをしています。お友だち関係も秋と同様、深まりを見せています。

## クリスマスってなあに？

収穫感謝礼拝から合同礼拝に参加しているにじぐみさん。牧師先生が心を込めて、ゆったりと優しくお話して下さる聖書のお話に耳を傾けています。アドベントが始まり、ろうそくに灯がともされるのをみると、子どもたちも何だか特別なことがあるんだな〜と感じているようです。

にじぐみのお部屋でも木片のろうそくにフェルトの灯をともししています。また壁面のクリスマスツリーに、アドベントカレンダーのペルを一人ずつ順番に飾りつけています。みんな早く自分が飾りたくて待ち遠しいようです。今日は誰かな〜？とワクワクするのも楽しいひとときです。

クリスマスの物語を知らないでいる人たちも多い中、この幼い時に、2000年以上も昔に起きた出来事を知ることは、なんて素敵なことでしょう。三歳の子もたちにクリスマスの本当の意味を伝えることは難しいことでもありますが、素直に受け止めてくれる子どもたちの柔らかな心に、私たちも喜びを感じています。また絵本の貸し出しの時に「かみさまのおはなしがいい〜」と聖書のお話を選んでいる子がいることも嬉しく思います。

にじぐみのクリスマス礼拝では、パネルシアターによるクリスマス物語を見ながら、讃美歌を歌ってイエス様の誕生をお祝いをします。後日クリスマスブックをお渡ししますので、ぜひおうちでもお子さんと一緒に歌ってみてくださいね♪



♪クリスマスのおはなし  
♪やどさがし  
♪よろこびうたえハレルヤ  
♪ひがしのくにより  
♪あるひうまごやで

※やどさがし以外一番のみ歌います



Akie★A

## クリスマスブックについて



讚美礼拝の準備が始まり、役柄を担う年長児はクリスマスブックを用いながら、イエス様誕生の夜を再現する「ハレルヤ」に少しずつ取り組んでいます。自分の名前が書いてあるクリスマスブックには一人ひとりが担う言葉や歌が載っています。役柄ごとに名前を呼ばれ、ドキドキした様子でクリスマスブックを受け取る子どもたち。ページを開き、「ここにあった！」と自分が担う箇所を見つけてジーッと見入っていたり、同じ役柄同士で「順番に言うんだよ」「わたしが最初に歌うからね」と確認しあったり。中には「ここが難しい」と繰り返し読んでいる子もいました。子どもたちにとって世界に一つだけの特別な本のようなのです。

先日、年中さんや年少さんも自分のクリスマスブックをもらいました。憧れの年長さんと同じ本を手にしてとても嬉しそうでした。早速、年長さんの真似をして表紙に色を塗っている子もいましたよ。

クリスマスブックは、毎日リュックに入れて幼稚園に持ってきてください。おうちの方の讚美歌練習の時には、クリスマスブックを子どもたちから借りてご持参ください。アドベントの期間、ぜひ子どもたちと一緒におうちで口ずさんでいただけたらと思います。イエス様のお誕生を待ち望む気持ちを分かち合いましょう。

このクリスマスブックは幼稚園で何十年も前から使われているものです。毎年毎年、子どもたちの思いや希望を受け止めながら少しずつ改訂を重ねてきました。以前、『天使』の役の子どもから「言葉よりも歌が歌いたい」という希望が出たことがありました。この時、子どもたちの意見で「両方すれば良いよ」と決まりました。讚美礼拝は劇ではありませんから、イエス様の誕生を喜び迎える姿を聖書にそって表せば、役柄によっては言葉を増やしたり、衣装のある限り人数を調整したりして、子どもたちの希望や思いがなるべく叶うようにと考えています。今年も一人ひとりが言葉を覚えていく中で、言いまわしや表現がクリスマスブックとは少し変わるところが出てくるかもしれません。それは、子どもたちがその役柄を身体を通して理解した時に、クリスマスブックに出てくる言葉が単なる「台詞」ではなくイエス様の誕生を祝う、子どもたち自身の「心の言葉」として表現されるからではないかと思います。





どうぞ、讚美礼拝当日は子どもたちの心のこもった言葉に耳を傾けていただき、共に讚美の時を過ごしましょう。



☆お願い☆

クリスマスブックは役柄の決定前に印刷、製本を行っています。子どもたちがクリスマスブックを持ち帰った時に、今年度の変更箇所の書き換えを各自でお願いいたします。(年長児は変更済みです。)

P10 ♪さんびか「あるひうまごやで」

↓この後に

★ナレーター⑩

かみは そのひとりごを おあたえになったほどに  
よをあいされた。

ひとりごをしんじるものが ひとりもほろびないで  
えいえんのいのちを えるためである。

を加える。

♪さんびか「もろびとこそりて」

今年度は、1番→4番。その後4番を繰り返します。

よろしく願いいたします。

